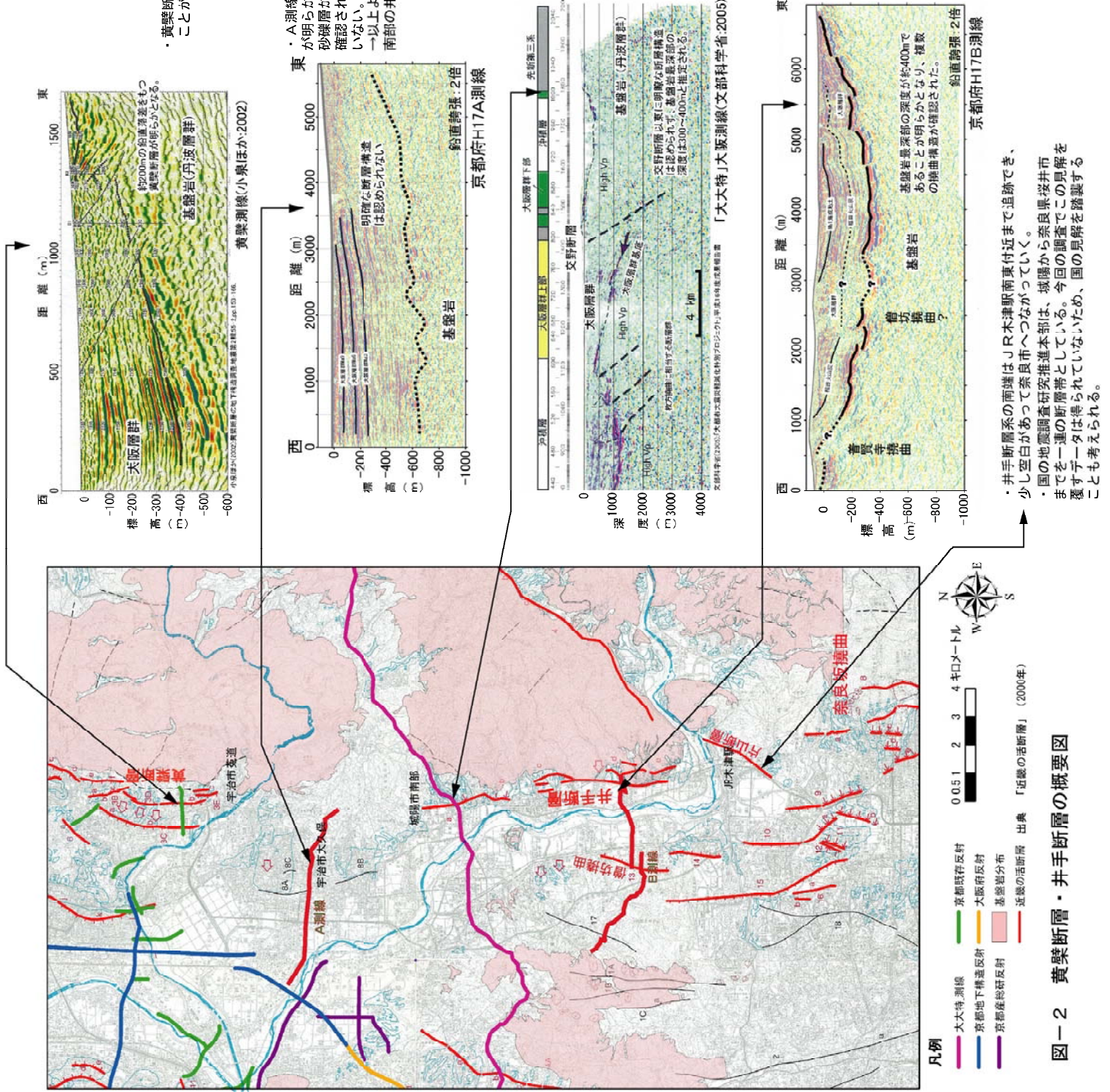


・黄檗断層は既存調査と地形から宇治川北岸から宇治川北岸までは存在することが確認できる。

・A測線の結果、宇治市大久保周辺には地下で断層が存在しないことが明らかになった。また、この地点より東側には地表付近から厚い砂礫層が山地に向かって堆積している。この砂礫層には変動地形は確認されず、今回調査によって基盤岩の不連続も確認されない。従ってこの地域まで断層はつながっていないと見られる。一以上より、黄檗断層は宇治川北岸の宇治市養道付近までと見られ、南部の井手断層へはつながっていないと見られる。



・井手断層はB測線で存在が確認された。

・井手断層系の南端はJR木津駅南東付近まで追跡でき、少し空白があったが奈良市へつながっていく。
 ・国の地震調査研究推進本部は、城陽から奈良県桜井市までを一連の断層帯としている。今回の調査でこの見解を覆すデータは得られていないため、国の見解を踏襲することも考えられる。